

ニッポンハム食の未来財団 2020 年度第二期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	アレルギーっ子が考えた『アレルギーってなんなん?』カードプロジェクト
フリガナ	オオモリ マユコ
申請者（代表者）氏名	大森 真友子
団体名（正式名称）	団体名：LFA 食物アレルギーと共に生きる会 申請者の役職・肩書など：代表

1. 活動結果要約

この活動の目的の1つ目は、当事者であるアレルギーっ子たちが学校生活において、本人たちが体験したヒヤリハットや、周囲に理解してほしいと思うことについて考えをまとめ、自身の体への理解をさらに深めること。2つ目は、その声を『アレルギーってなんなんカード』というツールとして形にし、指導者側からクラスメイトや周囲へのアレルギーの説明時に、わかりやすい実際の例をだすことによって、共感や全体の意識を変えていく為のサポートツールとして活用することです。

実際に活用してもらった教育現場では、具体的なイラストを見て話すことで、子どもたちが起きてしまった時に、どう行動するべきかの意見をだしたり、当事者が自分のアレルギーについて声に出しやすい雰囲気作りができたという声、また、指導者側も給食以外にも気を付けるべき点など改めて知ったなど、現場での食物アレルギー取り組みの難しさも改めて感じることになりました。

その中で、ツールを上手に活用することによって、指導者側だけが張り詰めて負担を背負うのではなく、当事者、周囲一丸となって課題に取り組むことが、誰一人とりこぼさず、社会全体で命を守っていることにつながると感じました。今後もこの活動を継続して行っていきたいと思います。

2. 活動目的

【活動の目的】

教職員の力量や理解度に関わらない啓発ツールを作成し支援側サポートをすること。アレルギーがある子ども当人らが実際に体験したヒヤリハット情報を共有しあうことにより自分のアレルギーについても理解を深めること。集まった具体的なエピソードを組み込むことで、周囲の子どもたちが理解しやすい一緒に学べるツールを作り、からかいが起きない環境、緊急時に先生に声をかけてもらうなど事故防止の観点からも全体でのアレルギーの知識を向上させること。

【活動の意義】

LFA 食物アレルギーと共に生きる会は、約 150 名の会員が在籍しています。エピペン（アドレナリン注射）の所有率が 99%の重度食物アレルギーがある子ども達です。当事者である子どもたちが、自分たちが身をもって体験したことを話し、どうすれば防げたのか、何を伝えておけばよかったのか、どうして周囲に知られなくなかったのか等、情報共有し話し合える機会が多くある【数少ない患者会】だからこそ、普段は埋もれてしまうような声を集めて形にすることが出来ます。LFA だけできること。この活動によって作成されたツールを、全国のアレルギーの子どもたちの為に役立たせることは、協力してくれた LFA の子どもたちにとっても、更なる自信を身に着けるキッカケ、経験になりました。

3. 活動方法

【計画通りに実施できた内容】

オンライン交流会などを使い、子どもたちからアンケート協力をしてもらい、クラスメイトに知ってもらいたい内容、どんなところで理解を得ることが難しいと感じるか、言い出せないかなど案を出してもらった内容でのカードを試作。実際に見てもらい、その内容にそった挿絵を描いて見て貰った。イラスト付きで見て貰った上での印象について、改めて具体例を考え直すなど修正が出来た。

【計画通りに実施できなかった内容】

当初、教室内で食物アレルギーを知ってもらおう授業の際に、子ども同士で考えを出し合えるカードゲームサイズの大きさを作成する予定であったが、コロナ禍においてカードの使いまわし、学年で利用するなど難しいという教育現場の声があった。その為、サイズを当初の予定より大幅に変更、紙芝居サイズ、アルコールスプレーで除菌ができるようにコーティングを施したカードになった為、作成する金額が大幅に上がり、予定していた配布数の作成は出来なかった。

【計画から外れて実施内容】

幼稚園・保育所・学校現場での指導者が使う想定にしていたが、学童の指導員や食物アレルギーがある児童の保護者が学校の教室で食物アレルギーについてお話をする時間に活用するツールとして使いたいというお声があり、実践してもらった。現物の数に限りがある為、テスト的にデータ自体を渡し、実施してもらった。

4. 結果及び波及効果

【結果】

今回の活動は、実際にカードを当事者である子どもたちが自分のアレルギーについて理解してもらい必要性を考える機会にもなったが、それだけではなく、カードを使い先生らが、食物アレルギーの話題に触れた時に、どれくらいのクラスメイトたちが、アレルギーについて知っているか、どのように反応するのかなど知るきっかけにもなり、周囲の人に自分のことを話しやすくなった点、非常に良い結果をだせたと思います。

言い出しやすい環境は、少しの変化やSOSにも周囲がもしかしたらを想像し動くことができる為、指導者側だけの負担ではなく、全体で取り組むという姿勢を促進できました。

【波及効果】

子どもたちの柔軟な想像力がアレルギーに対しても行われる機会になりました。具体的な例を出し、どんな食べ物に、どんなアレルゲンが入っているのだろうと想像してもらおうと子どもたちに

人気のメニューをいくつか抜粋しイラストにしましたが、実際に教職現場で使ってもらった際には、その学校や園で使われている給食の写真、特に話をする前のメニューの写真を使って説明を行うと、『何が入っていたんだろう？』『先生これには小麦が入っているの？』『これは白いけど牛乳なの？』『〇〇ちゃんは食べられるの？』と食べ物について質問する子どもたちが多く、『じゃあ、これ食べた後は、手をあらったほうがいいんだね』等、その先にある気をつけてほしい内容について頭の中でリンクが出来ていたという報告が多くありました。

一度で全て理解できるわけではありませんが、繋げて考えられるきっかけとしてこのツールを活用することにより、その先の行動をそれぞれが考える力に影響を与えることができたと思います。

また、子どもたちに理解しやすいようにと具体例とイラストを作成しましたが、意外にも多くの指導者側の方が、はっとさせられたというお声を寄せて頂きました。

食物アレルギーがテーマの為、どうしても給食の時間帯にスポットがあげられますが、給食の時間帯だけでなく、それにとまなう課外事業や掃除の時間、普段のお菓子交換など、同様に気を付ける必要があることも全体を通し理解してもらえたことは、大きい成果だと思います。

食べたり、触ったりすると、どんなことが起こるのか。何故薬をもっているのか、どんな言葉に傷つくのかなど実際の声は、クラスメイトにしっかりと届けられるようにメッセージを込めましたが、学童でのシチュエーションや、保護者から話すときのことばなど、追加オプションが選択できるよう、今後も改良し、啓発普及をしていきます。

5. 今後の活動について

このなんなんカードについて、幼稚園や保育所・学童のシチュエーションなど具体例をさらに追加し必要に応じて順番を入れ替える、学年によって何回かに分けて説明をするなどの工夫をカードの使い方と共に啓発し、自由度を高めることで更に広げることが可能だとわかりました。子どもたちにわかりやすい具体例は、指導者側としても知っておくべきポイントの為、ヒヤリハットを学ぶ機会として非常に有効でした。コロナ禍において印刷物にする場合、今回のようにアルコール除菌などの問題がおきましたが、データでの公開やそのお話を録画し自由に使える映像として発信することも、iPadなどを駆使する学校教育の現場において必要であり、より多くの地域で活用が期待で

きると考えます。

以上